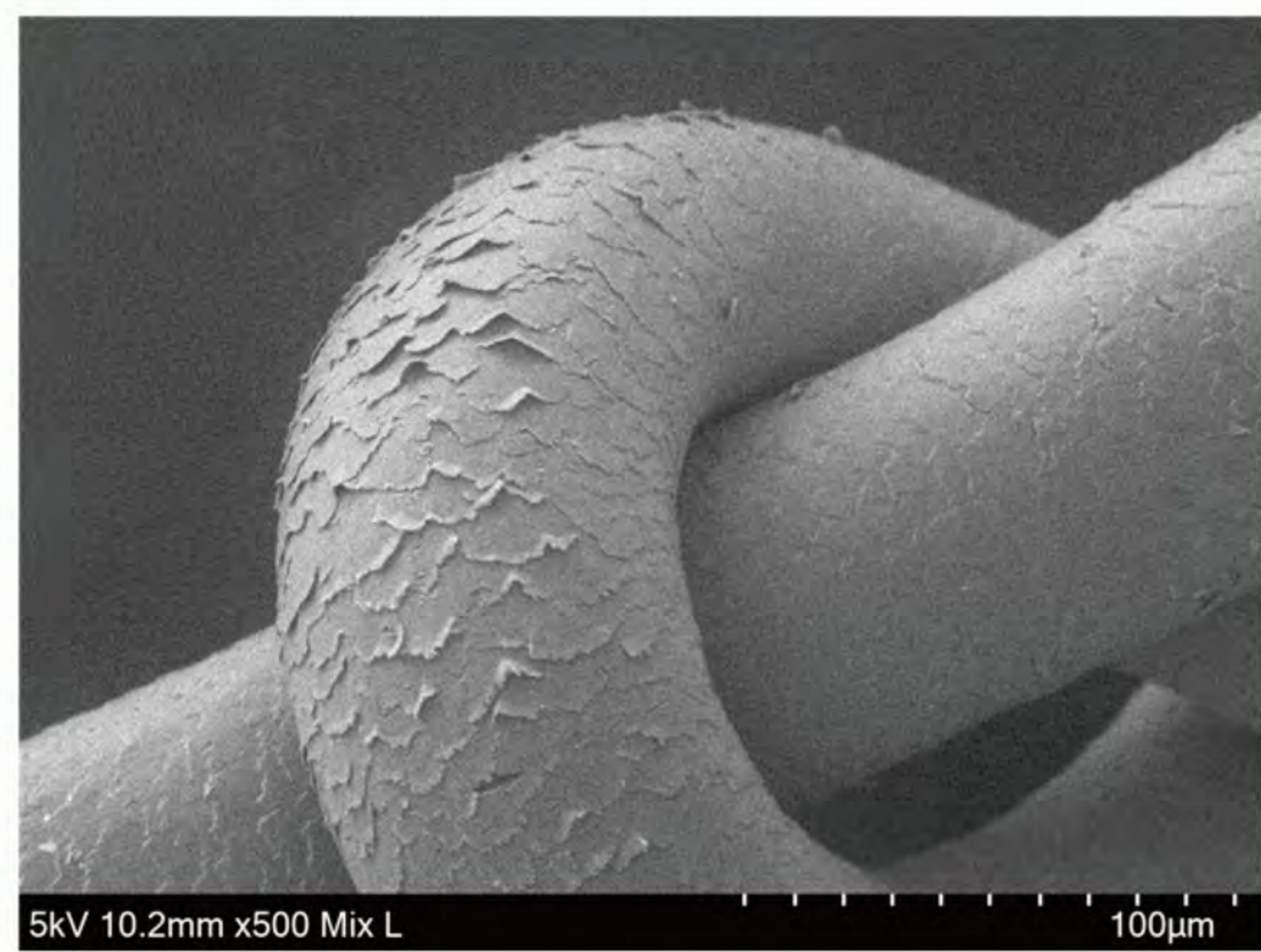


ヘアケア化粧品の有効性 / 使用感評価

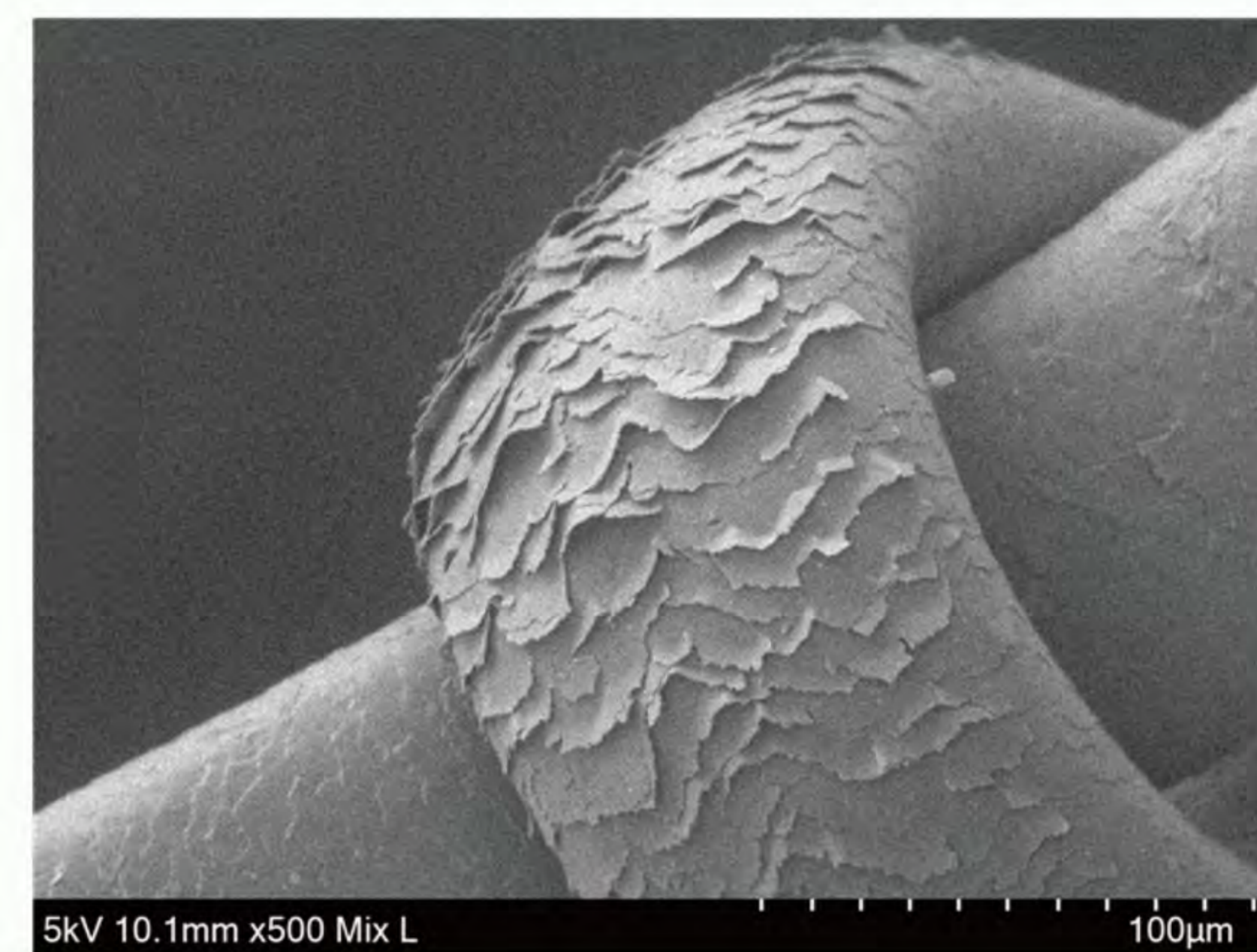
訴求ポイントとその評価例

キューティクルの状態

走査電子顕微鏡 (SEM) により、キューティクルの剥がれ、重なり合いを観察することで、毛髪のダメージ度合いやヘアケア化粧品の効果を視覚的に評価することができる。



健全毛

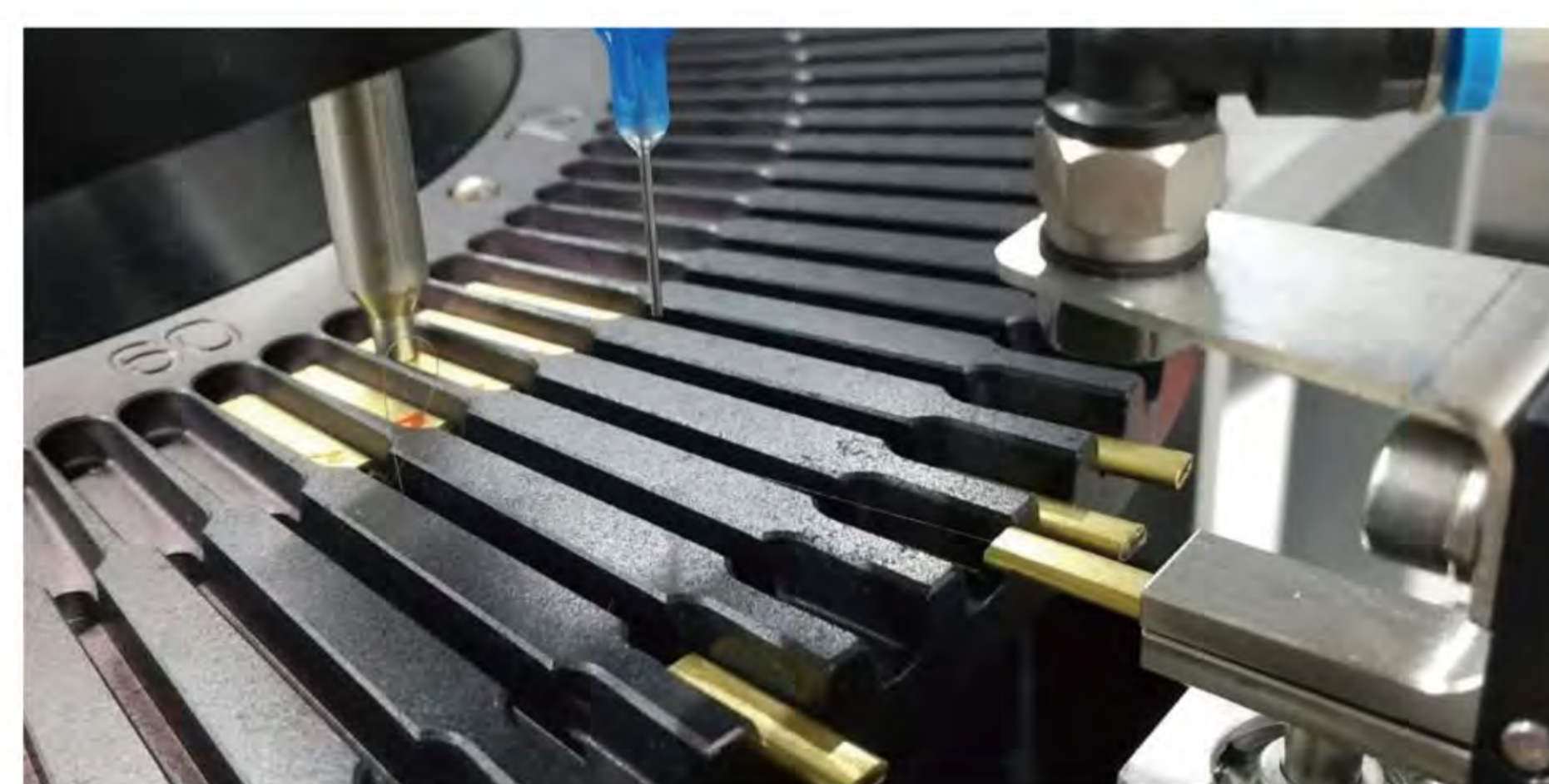


ダメージ毛

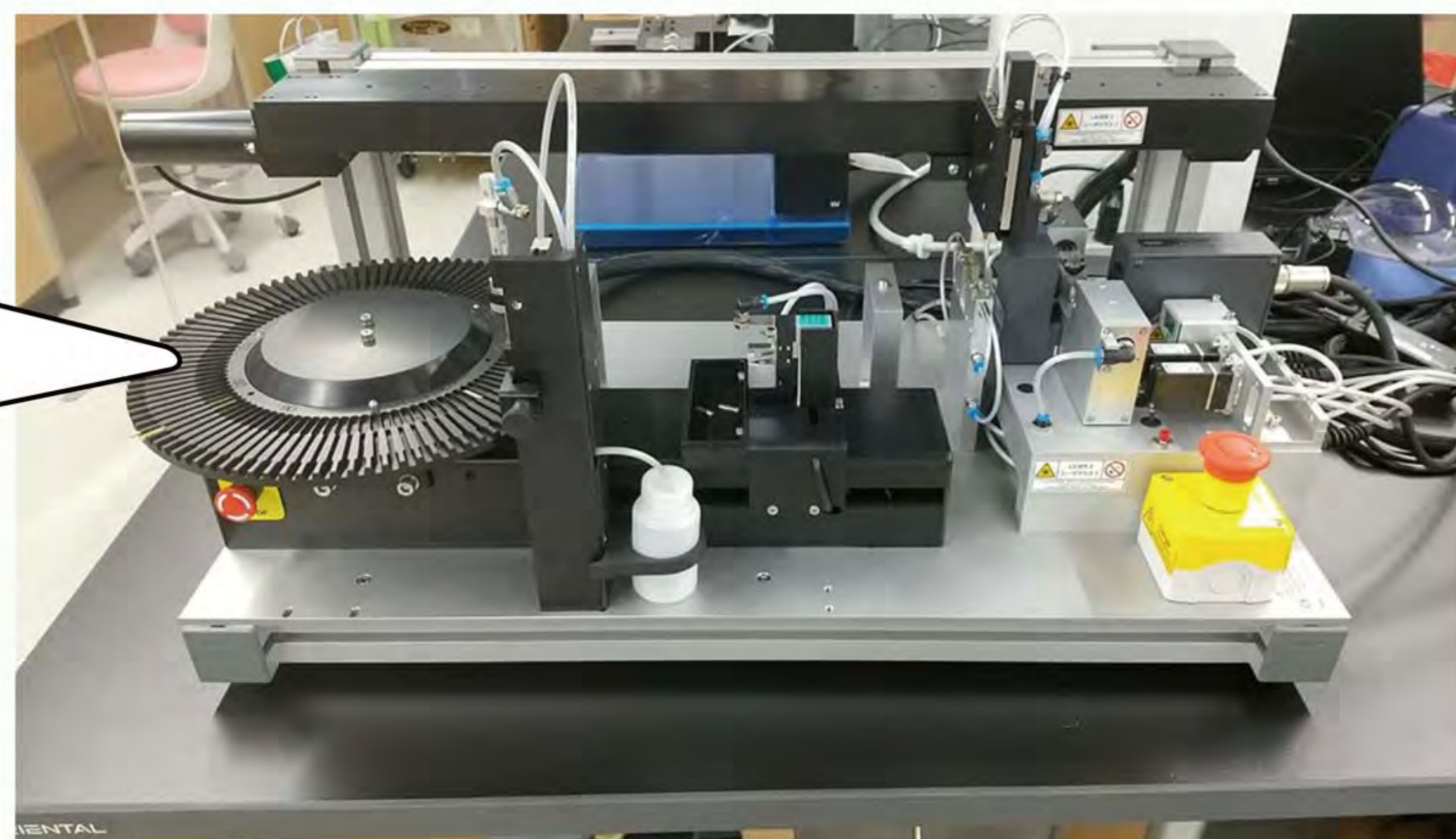
毛髪内部の補修効果

引張試験により、毛髪を引っ張った際にかかる応力とひずみ (毛髪の伸び) を測定することで、毛髪の強度が分かるため、ヘアケア化粧品による毛髪内部の補修効果を評価することができる。

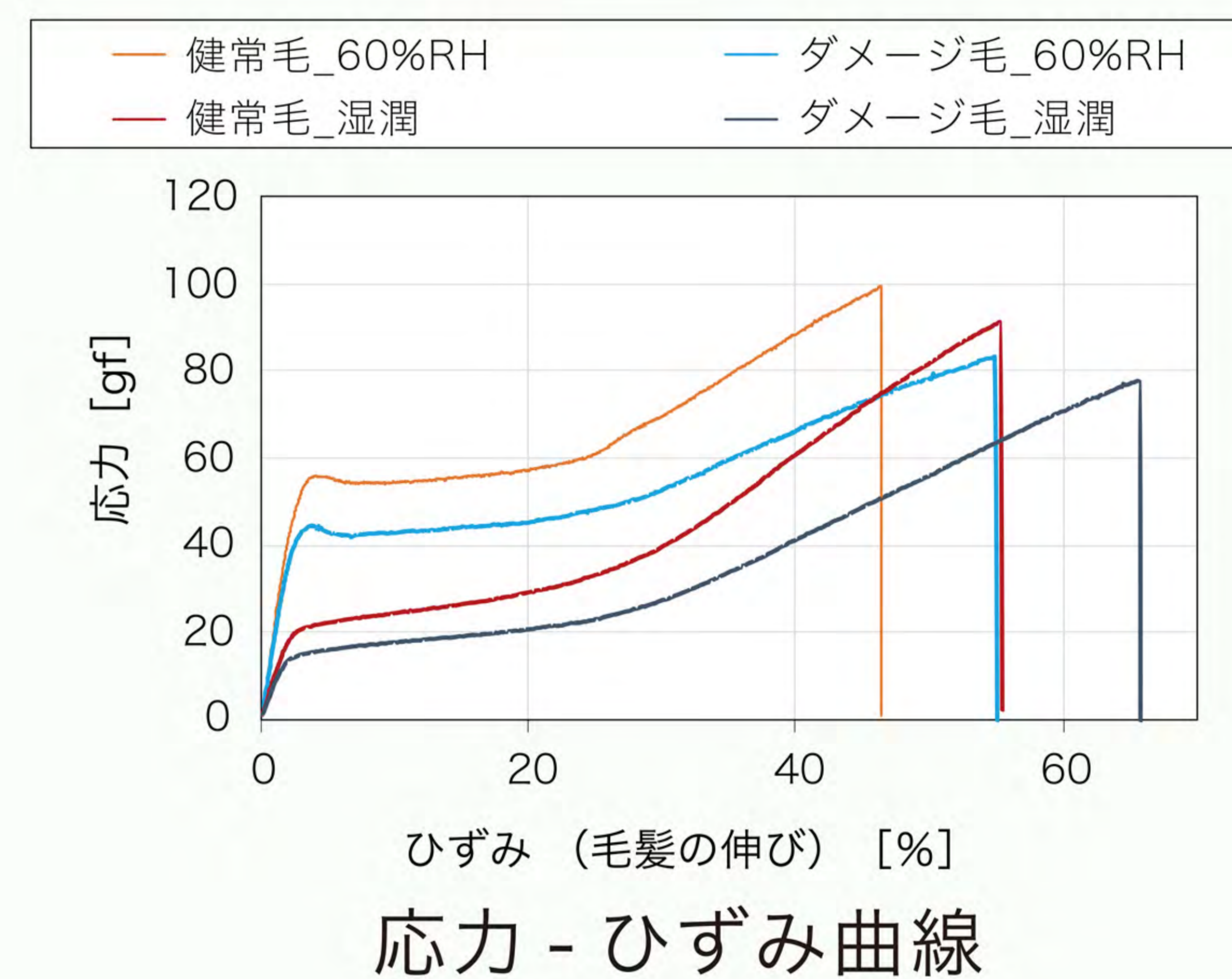
毛髪を1本ずつ引っ張る



引張試験の様子



単毛髪力学試験機



応力 - ひずみ曲線

使用感 (手触り) の変化

◆ クシを通りやすさ



毛束根元 付近



クシの動き

クシにかかる仕事量を測定することで、クシを通りやすさを評価することができる。

クシ通り試験の様子

◆ 毛髪表面の滑らかさ

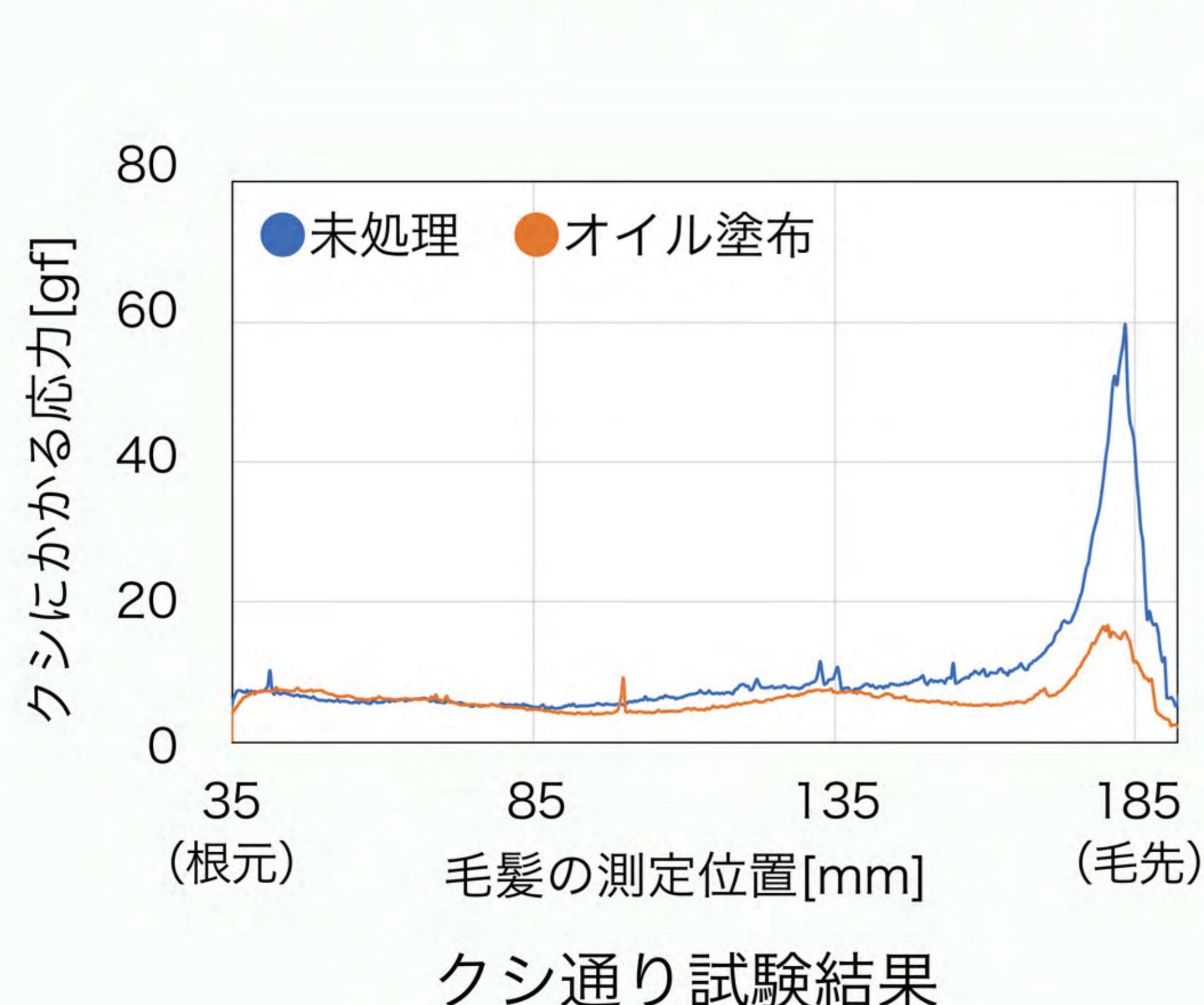


摩擦試験の様子

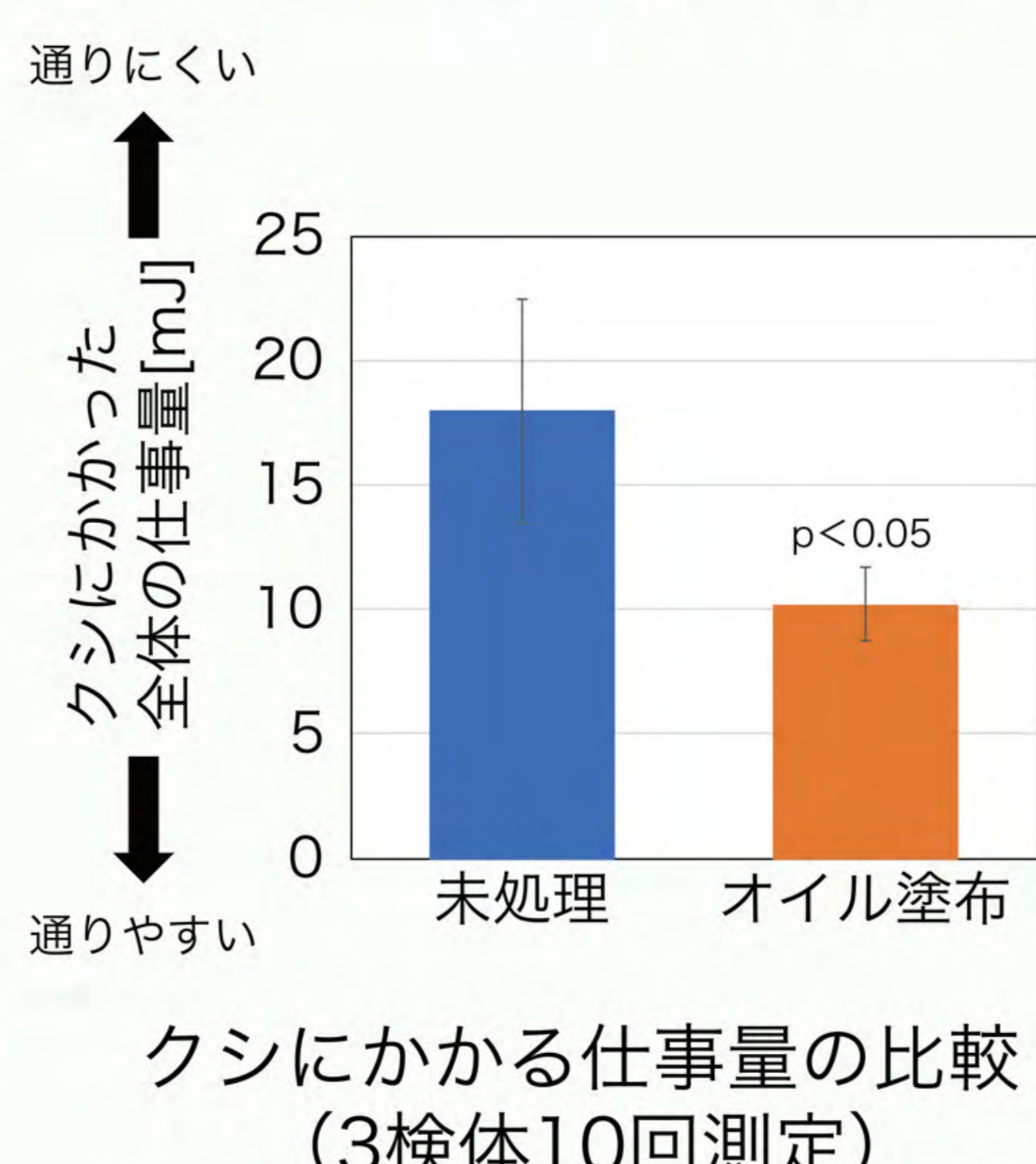
摩擦係数を測定することで、毛髪表面の滑らかさを評価することができる。

【ヘアオイル塗布前後のダメージ毛※の手触りの変化を数値化】

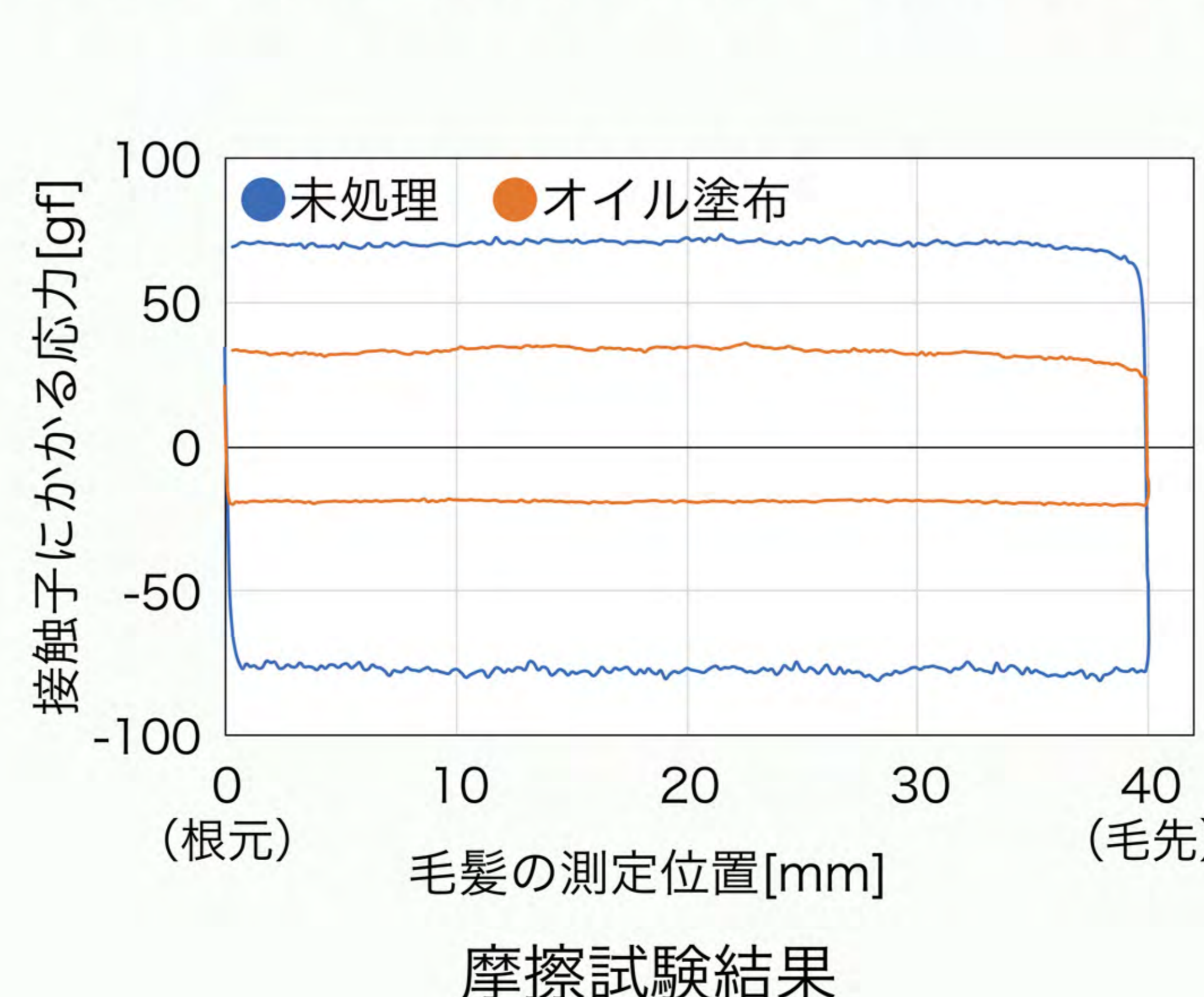
※ダメージ毛：ブリーチ液、パーマ液浸漬各2回



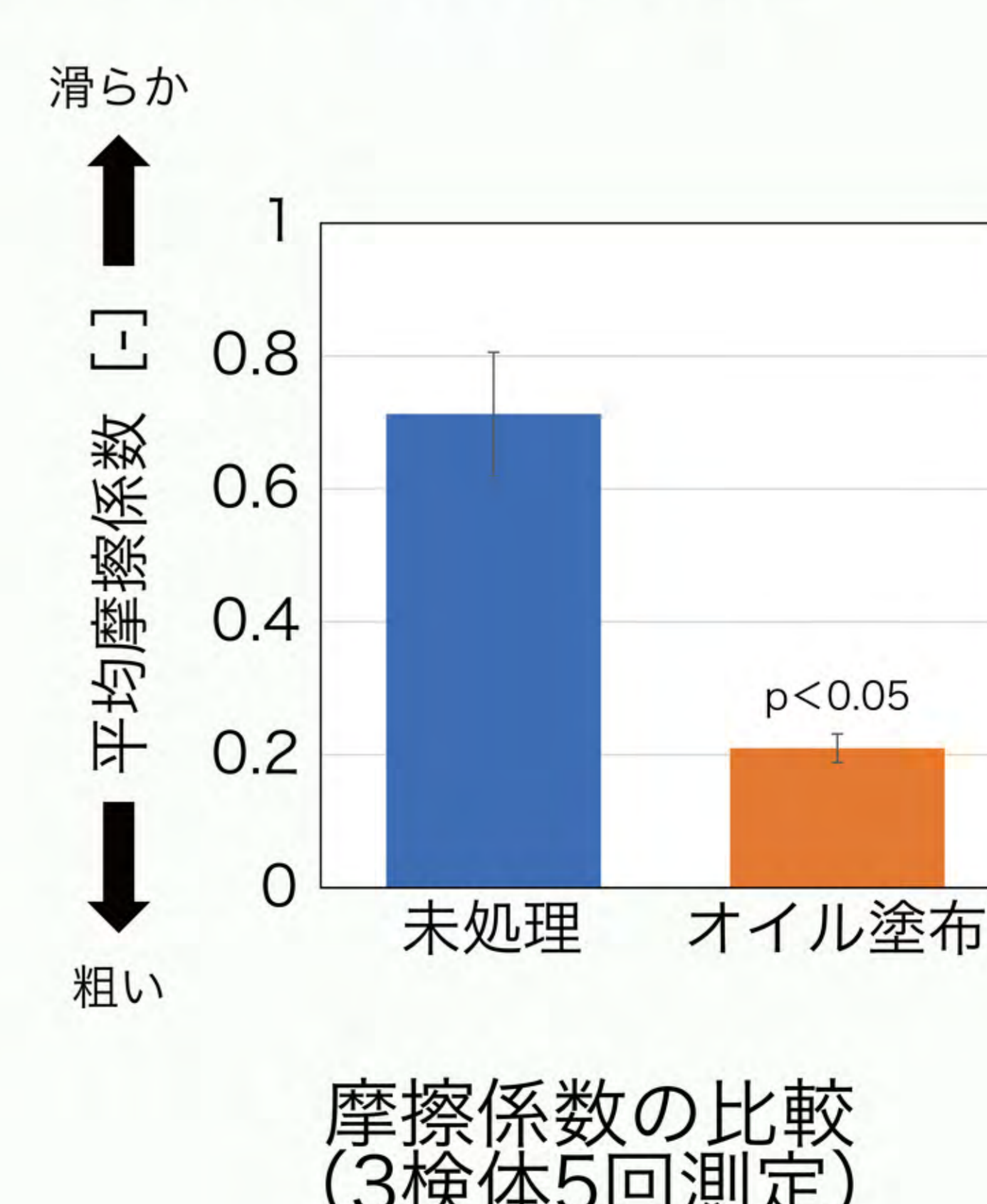
クシ通り試験結果



クシにかかる仕事量の比較 (3検体10回測定)



摩擦試験結果



摩擦係数の比較 (3検体5回測定)

ヘアオイルを毛髪に塗布することで、塗布前よりも毛髪のクシ通り・表面の滑らかさが向上した